

「社会科」と 「インクルーシブ教育」 の関係性

川口広美（広島大学）



社会科って、どういう教科？

通常は…

社会科

- ・社会に関する**情報を大量に扱う**教科
- ・「武士」「政府」「農業」…など抽象的な言葉も多い(イメージさせにくい)

通常は…

社会科

- ・社会に関する**情報を大量に扱う**教科
- ・「武士」「政府」「農業」…など抽象的な言葉も多い(イメージさせにくい)

いかに子どもにイメージさせるか？

大量の言葉を負担なく覚えさせるか？ = **技術・方法的支援**

本来…

社会をわかり、社会について考える教科
将来の社会の担い手を育成するための教科
=これが軸

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を(...)育成する教科

(小学校学習指導要領社会科編)

市民的資質とは？

人がある社会の構成員である(あり続ける)ために必要な力・資質

曖昧、教師によって異なる重視点



例:色々な人たちが差別されることなく共生できる社会

- ・なぜ、差別が生まれたんだらう？(歴史)
- ・どういう人たちがどういうところに住んでいるんだらう？(地理)
- ・「差別」だと感じた人たちはどこに声をあげたらいいんだらう？(公民)
- ・(多数決では負ける)少数派の人たちが声を上げることが正しいという考えがあるのはなぜ？(公民)

社会科は、「イン
クルーシブ教育」
自体が**学習内容**
になり得る教科

今回の登壇者の紹介

玉井慎也

- **社会科教育**を専攻する院生
- 中学校での非常勤講師(2年目)
- 特別支援学級を担当(1年目)
- 研究テーマは英国の歴史教育

久保美奈

- **社会科教育**を専攻する院生
- 高校での非常勤講師(2年目)
- 修士時代から障害×社会科教育を研究テーマ

自分の社会科授業実践を振り返り、

①何を軸としているか？、②授業の特徴は何か？を説明してもらいます

振り返りの視点:個人モデルと社会モデル



「個人モデル」の捉え方



障害:「歩けない」こと
障害の原因:身体

「個人モデル」:
障害の原因や結果を
個人的なものとして捉える
認識枠組み

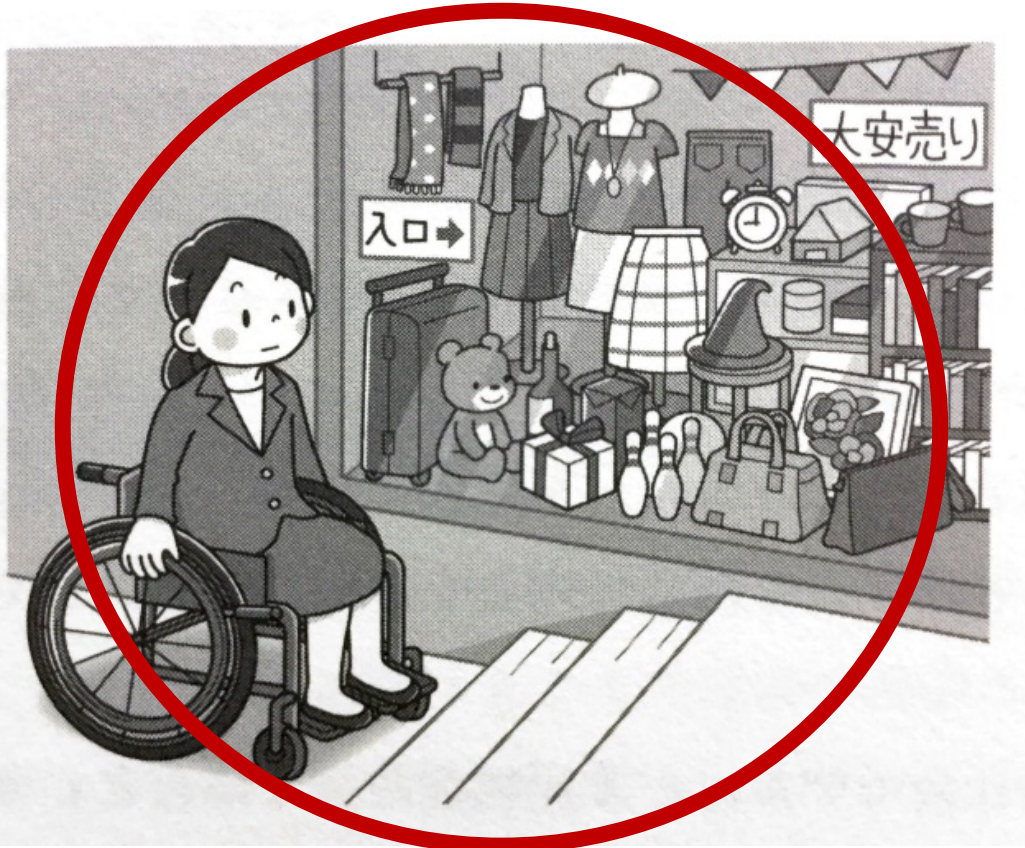
個人の欠陥

➡社会や障害者“自身”による

「障害者の社会的排除」を

助長してしまう危険性

「社会モデル」の捉え方



障害:

お店に入れない(買い物ができない)人がいること

障害の原因:

- ・階段といった物理的環境
- ・街の歩道に段差を認めるような障壁のある街づくりを規制していない自治体の基準や条例
- ・階段を上らないと入れないところに
入り口を作ったこのお店のオーナーの考え
- ・変だとは思わない私たち一人ひとりの頭の中や
価値観

「社会モデル」:

障害の原因や結果を社会的なものとして
捉える認識枠組み

■社会モデルの意義

障害を「**静的なもの**」から「**動的なもの**」へ

- ▶ “障害者”と“健常者”という**優劣を持つ二項対立を解体**
- ▶ 人びとの違いを“違い”として受け止めるということへの一歩
=「自立した個人」から

「他者への依存」を前提とした人間観へ

「依存する者」を排除

参考)

岡本智周, 丹治恭子(2016)『共生の社会学』太郎次郎社
岡野八代(2012)『フェミニズムの政治学』みすず書房

2人の発表の位置づけ

- **玉井さん:「社会モデル」から教師の授業実践を振り返る**
 - 教師は子どもが自分の求めることができない場合、「子どもの力が足りないからだ」となりがち
 - 教師の実践自身も「環境」の一部
 - 自分の授業のどこが障害を作り出しているのか、を検討し、これまでの自分の授業の課題と改善の方向性を示す
- **久保さん:「社会／個人モデル」の視点を子どもが身に着ける授業**
 - 生きにくさを感じている子どもは「自分が悪い」とせめがち
 - 子どもは、自分自身の価値観を振り返りながら、「社会モデル」「個人モデル」を学び、他の事例に適用できるための授業を示す